

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、一人の人として「自由な暮らし」や家族や友人、地域の人達との絆を大切に、「願いや想い」を大切に、「その人らしさ」の実現を理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいところに掲示し、毎朝復唱して職員1人1人がその理念を理解する機会にしている。又、日々のケアの中で立ち止まった時、理念の意味を職員で話し合い実現に向けて取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見やすい所に掲示したり、利用案内のパンフレットにも記載している。家族会や運営推進会議の折にも理念の浸透を心がけ、構成員の方からも普段やっていることが理念に繋がっている事はみんな知っているというご意見を頂いた。		
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	塀のない環境のため、敷地内の畑や花の手入れをしている時、近隣の方と気軽に挨拶したり、収穫した作物をお裾分けしたり、野菜をいただいたりとお礼やお付き合いをさせていただいている。ホームで犬を飼っている為、犬の散歩に来て寄っていかれる方もいる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの設立段階から地域の人達と関係を深める働きかけを行い、現在も良好な関係を継続している。利用者も地域の会合やクリーンアップ運動、子供見守り隊に参加し、又、学校や幼稚園の運動会、地域のゲートボール大会など交流に努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の暮らしに配慮しつつ、ホームの見学や学校、市職員の福祉実習など積極的に受け入れている。又、緊急時(台風や地震、雷等)一人暮らしの高齢者の緊急避難場所として提供したり、地域徘徊者の家族迎えまでの一時預かりも受けるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員の自己点検を通して、現状のホームのあり方を振り返り、ホームに求められている役割や機能も再確認するようにしている。又、評価後は全職員で改善策を検討し、意識の向上と一丸となって取り組むの大切さを知る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や事業報告、事故報告や苦情、入院状況、予想されるリスクなど様々なことを一緒に検討している。又、包括センターや市役所からも情報や意見をいただき、いろんな意見をサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政職員のホーム見学や新人研修を受け入れ、認知症の理解や暮らしぶりなどを体験してもらっている。又、家族会の勉強会にも講師としてきてもらったり、何でも気軽に相談できる関係が築かれている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で行われる研修会には積極的に参加し、制度の理解に努めている。新人職員にはオリエンテーションの際に教育している。家族から相談があった時は、相談機関(社会福祉士会等)に繋いでいる。現在2名の方が利用されている。近く内部研修を予定している。(7月頃)		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修だけでなく、内部研修の人権についての研修でも虐待や拘束が及ぼす影響などをしっかり理解し、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人の状態、入居に至る経過、家族の状況、希望など十分な説明、理解を図り、退去時にあたっては、本人の状況に適したアドバイスにより入居者の今後の生活に配慮するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「なかよし会」の中で気軽に不満や要望などを言えるように働きかけており、会の会議録はいつでも閲覧できるようにしている。又、安心介護相談員の訪問時にも苦情や不満等を表しやすいように環境にも配慮している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、ケア記録に目を通していただき、コメントをいただいている。又、定期的に出納を報告しサインをいただいている。職員の異動については、家族会や家族参加の行事等で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員を除いた家族会の中で遠慮なく苦情や意見を出していただいている。不満や苦情に対して、その苦情の原因を探り、職員全員で対策を検討している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	それぞれのユニットで月に1回、全体会議は随時必要に応じて会議を開き、職員で意見や提案を出し合い運営に関する意識の向上を図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成前に希望休日を尋ね、無理のない体制の中で調整し、必要な人員を確保している。又、急病や行事で職員が必要になった場合は、ユニット同士で応援体制をとっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えているが、ローテーションや研修受け入れなどで職員の顔が増えることが多い。利用者によく説明し、納得して頂く事で、先輩として逆に職員指導で力を発揮される場面も見られる。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢、性別を問わず、採用対象から排除しないようにしている。新規採用者には1ヶ月をかけて各部署を経験してもらい、その職員の能力が発揮でき、長所を活かしていきいきと働ける部署に配置し、アドバイスや支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員への集中的なオリエンテーションや法人内の接遇や人権についての研修などに参加し、日頃より意識化している		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修、外部研修等への参加を促し、職員のスキルアップに努めると共に、資格取得の支援もしている。又、自己研鑽として、外部からの研修生の指導にも当たらせ、職員の質の向上に努めている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に加入し、他ホームと研修内容の話し合いをして実践している。又、他ホームからの研修を受けたり、相談しあったりして交流を図っている。安心介護相談員との意見交換会にも参加し、質の向上に向けて取り組んでいる。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が悩みなどを気軽に話せるような環境作りに努め、管理者などが日頃からよく話を聞くようにしている。又、リフレッシュの為、日帰りや1泊旅行などグループに分かれて気晴らしに出掛ける体制作りをしている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一人ひとりの個性・長所を把握し、楽しく笑顔で働ける様に心がけている。役割を持たせ、能力を発揮できる場を作り、自信を持たせることで職員の向上心アップに努めている。資格取得支援も行っている。		
	<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に生活の現状を知る為、自宅訪問を行ったり、見学がてらホームに来てもらい、ゆっくり話を聞く時間を設けるなど、不安や困ったこと、希望などよく聞くようにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所予定者が入所に納得できず、否定的な場合は一緒にホーム見学を薦めたり、自宅を訪問してご家族の不安や要望などもよく聞くようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	本人やご家族の現状や要望を聞き、医療、福祉 両面から必要な支援は何かを見極めて助言や アドバイスをしている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	入所事前には、家族や本人と環境の変化による ダメージを検討し、なるべく壁紙やジュータンの 色など自宅に近い環境にしている。又、利用前 に部屋を見ていただいたり、食事を提供したりし て、少しずつ場の雰囲気に馴染めるように工夫 している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	旅行、犬の飼育、野菜作りなどを通して喜怒哀 楽を共にし、職員と利用者を越えた関係が築か れている。生活の知恵など教えて頂き、人生の 先輩であるということ意識して対応している。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と何でも話せる関係作りを努め、行事には 準備段階から参加してもらったり、記録物の関 覧等情報の伝達を密に行い、家族と共に支える 関係作りを努めている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	家族と気軽に外出されたり、枕を並べての宿泊 などゆっくり家族水入らずで過ごせる時間を積 極的に作っている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や馴染みの商店、懐かしい友 人宅への訪問、地域のゲートボール大会や夏 祭りなど、積極的に地域に出掛け、知人と会う 機会を多く作り馴染みの関係が継続するよう にしている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂の席も個々の関係性を考慮し配置してお り、気の置けない仲間と周囲を気にせずゆっく りと談話されるスペースも作っている。会議の中 で利用者が孤立することがないように、利用者同 士の関係性も話し合っている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	他施設に入居されたり、入院された方には面会 に行ったり、ご家族にはいつでも気がねなく立ち 寄っていただくよう声掛けしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で本人の話をゆっくり聞き、願いや思いを聞きだしている。又、月1回のなかよし会にて希望や意向の発言の場を設けており、職員は常に本人本意での支援を心がけている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から情報を収集して作成した大牟田方式のらしさシートから、生活歴や習慣、大事にしている事などを把握し、その人らしい暮らしになるよう努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の心身状態、残存機能を把握や生活サイクルを把握し、状況に合わせて有する力の維持に努めながら、一人一人のペースに合わせた支援を行っている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で、出来る事、出来なくなった事など、家族や本人の意向を尊重しながら計画作成を行っている。又、かかりつけ医や管理栄養士、作業療法士などからの助言ももらっている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間(3ヶ月)を明示して、終了時に評価、見直しを行い、又、状態変化に応じ随時の見直しを行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々の暮らしの様子やバイタルチェック、体調変化や小さな気づきなど具体的に記入している。又関わりやその結果なども記載し、情報を共有している。月末には支援経過及び評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族の面会時には、宿泊の受け入れを行ったり、本人の希望で自宅で過ごされる時間を付き添ったり、本人やご家族のその時々々の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出傾向のある利用者には、ご家族の了解を得て、写真や特徴を記載したものを駐在所や消防署、立ち寄りそうな商店などに配布し支援、協力体制をとっている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内でおこなわれる「頭の体操」や「回想療法」、「学習療法」など作業療法士によるサービスなど行っている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員は、運営推進会議の構成員でもあり、権利擁護や成年後見人制度の研修会を開催してもらったり、助言やアドバイスがもらえる体制を作っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を大切に、継続して頂くようにしている。本人や家族の希望でかかりつけ医を変更される場合は、意思を尊重し新たな医療機関と良好な関係作りに努めている。又、受診時には情報提供書を作成し、情報交換を行っている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の状態変化に応じて相談できる専門医を紹介し、受診時には情報提供書を作成して情報を共有しており、相談に乗ってもらったり、助言を頂いている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者全員の健康状態を把握し、利用者の状態に合わせて配置看護師、主治医との連携を図っている。又、緊急時には地域支援診療所からの往診を受ける事もでき、往診医や訪問看護ステーション、家族との連携も行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は情報提供を行い、面会時には医師や看護師に情報を頂いている。又、ホームでの治療が可能な場合は、訪問看護との連携により、早期退院に向けての働きかけも行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から医療受療確認書により、本人や家族の意向を聞いている。重度化や終末期を迎えたら、看取り同意書を作成し、主治医を交えて随時意向を確認し、全員で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には出来る事・出来ないことをはっきりと明示し家族の了解を得ている。主治医には状態報告書を作成し、毎日の状態を報告するようしており、急変に備えてAEDや吸引器の使い方など、職員で繰り返し確認しあい準備を行っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は本人や家族、職員間によく話し合い、馴染みの家具を使い慣れた方向に配置したり、面会の協力をお願いしている。又、転居される場合は、状況報告し、面会に行ったり情報交換を行っている。		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声掛けも小声で「部屋へ行きましょうか」と言う言葉に替え、誇りやプライドを損ねないように対応している。記録物は戸棚に収納し、家族の面会時に手渡し、閲覧してもらっている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自宅の仏壇にお参りしたい、買い物や十日市に行きたい、山に登りたい、入浴は寝る前がいい等、利用者の話によく耳を傾け、できるだけ本人の思いや希望、意向を汲み取るように努めている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、好きな時間や居室で食べられたり、入浴の時間や買い物の希望にも応じている。犬と散歩したり、同法人のデイに遊びに行かれたりと、その人のペースで過ごしていただいている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は時期や場所など自由に決めていただいております、外出着は本人と相談しながら準備するよう心がけている。又、希望される方には洋服や化粧品を一緒に買い物に行き、おしゃれを楽しんでいただいている		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れながら献立を立て、下ごしらえから片付けまで出来る範囲で一緒に行っている。時には雰囲気を変えて外庭で昼食を食べたり、個別で仕出し屋さんから配達して頂く事もある。1日、15日はお赤飯とお刺身の日として日付の確認をしてもらっている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に出掛け、好きなものを購入されたり、地域から月に一度移動売店が来るので、自由に欲しい物を購入されている。又、寝る前にお酒を飲まれたり、職員と一緒にたばこを一服して過ごされている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な人にはチェック表を作成し、排泄パターンを把握している。又、水分摂取量や時間、行動からも排泄のサインをキャッチし、トイレでの排泄の支援を行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼風呂が好きな人や寝る前に入る人など、好きな時間に入浴できるような体制をとっており、その時の希望を聞きながら行っている。時には少人数で、近くの温泉に行きゆっくりと入浴を楽しまれることもある。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自らの生活リズムが確立されてある方には、サイクルを乱さないよう心がけ、体調をうまく表現できない方には、活動の様子や表情で、疲労度等を把握し、無理のない生活や、適度な休息の声掛けをしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬の散歩や買い物、刺し子や山登り、季節には、土筆取りや外庭の釜で薪を燃やして笛をゆがいたり、畑で野菜を作ったり、地域の小学生の登下校の安全を守る子供見守り隊メンバーとして活動している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員全体がお金を持つことの大切さを理解しており、ストアや月に1回の移動売店でも物の値段を知り、自分の財布からお金を支払う金銭感覚と社会性の維持を支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物だけでなく、山登りや自宅までの外出、犬の散歩や畑の草取り、収穫など一人ひとりのその日の気分や体調によって戸外へ出られる支援を行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	なかよし会の中で、行きたい所や逢いたい人などを聞いている。山登り希望の方には、職員が付き添っている。又、月に1回家族に付き添われ、女学校時代の友達との食事会に行かれたり、家族と温泉旅行に行かれる方もおられる。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への手紙の代筆や電話など、家族や知人との絆を大切にしている。又、お正月とお盆には、自筆の年賀状と暑中お見舞いを家族や大切な知人へ送付している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも笑顔で迎え、ゆったりと居心地良く過ごしていただけるような雰囲気作りをしている。部屋でお茶を飲み会話を楽しめたり、食事を食べて頂く事もある。遠方の家族の宿泊も受け入れ、馴染みの人との時間を大切にしている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	協力病院が「抑制廃止福岡宣言」の病院であり、職員は身体拘束によって受ける身体的、精神的弊害について理解し、見守りや付き添いを中心とした拘束のないケアを実践している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せず、人の出入りでチャイムが鳴るようにしている。入居者が出掛けられそうな雰囲気を察知したら、さりげなく声掛けしたり、安全面に配慮しながら一緒に付き添うようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式の台所とフロアーを中心に入居者の居室があり、台所に立ちながら9名の入居者の所在や様子を観ることができ、安全面に配慮できる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	顔そり用のかみそりやライター、はさみ等入居者の状態に応じてお預かりしている。又、使用後の包丁や洗剤類は、入居者の目の届かない場所に保管している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は転倒や窒息、誤薬によるリスクを理解し、一人ひとりの状態に合わせて、手引きや付き添い、服薬時の確認など徹底し、事故防止に努めている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフ会議の中で、AEDの使用法を練習したり、看護師より応急手当や初期対応の講習を受け、全ての職員が対応できるようにしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年2回実施しており、入居者の避難場所や避難の手順を理解している。また、運営推進会議を通して、災害時には近隣からの協力を得られる様に働きかけている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	力を活用する上で起こりうるリスクや、その人らしい暮らしをして頂く上でのリスク等を家族に十分説明し、理解していただいている。又、職員も個々に応じた対応策を話し合いリスク防止に努めている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定時や日中の様子など、わずかな体調の変化も見逃さないようにし、体調変化の早期発見に努めている。異変があった場合は、家族及び医師や看護師に連絡し、職員間でも情報を共有している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診ファイル、服薬情報のファイルを作成し薬の作用、副作用、用法、用量を理解し、症状の変化の確認に努めている。内服薬の変更時は、ケア記録に記載し、全スタッフに伝えている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事では繊維質の野菜やヨーグルトを多く提供し、毎食汁物をつけるようにしている。水分摂取量にも留意し、散歩や適度な運動なども取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分で出来る方は声掛けして見守り、出来られない方には義歯洗浄介助やうがいの手助けを行ない、口腔内の清潔保持に努めている。夕食後は義歯を容器に保管し預かっている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士からの助言もあり、栄養のバランスを考慮し、食事の量など個々にあわせて提供しており、残食はほとんどない。水分摂取量が少ないと判断した時は、ポカリスエットなどを提供している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれのマニュアルを作成し、感染症が流行したら、手洗いやうがい、消毒や高温殺菌など早期対応に努めている。又、インフルエンザについては、予防接種を促している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん、包丁などは定期的に殺菌消毒し、衛生管理に努めている。食材は新鮮な肉や魚、野菜を購入し、冷蔵庫内の整理整頓、食品の賞味期限確認を行い、食中毒予防に努めている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を与えない様に、玄関周りには季節の花や植物を植え、気さくに入りやすい雰囲気作りをしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に昔懐かしいタンスや鏡台、足踏みミシン等を置き、落ち着いた雰囲気作りをしている。ジュータンや壁紙、照明もやわらかい色のものを設備し、居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもソファやテーブルを置き、衝立でプライベート空間を確保している。ベランダにもテーブルと椅子を置き、思い思いに過ごせるようになっている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだ家具や日用品、大切な仏壇などを持ち込んで頂き、自宅に近い環境の中で安心して落ち着いた暮らしができる様に配慮している。茶碗や湯のみ、お箸なども持ち込まれ大切に使われている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時窓を開け、リビングや部屋に風が通るように心がけており、24時間換気扇も作動している。居室やリビング、脱衣所、食堂など空調設備を整え、快適に過ごせるようにしている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋のトイレには手すりを設置し、浴室には滑り止めのタイルを使用している。ベランダの物干しも入居者が洗濯物を干すのに丁度良い高さになっており、自立した生活が送れるように配慮している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋にトイレと洗面所が設置されており、排泄や整容の自立に繋げている。部屋の入り口の暖簾も本人の好みでつけられており、自分の部屋という意識化をしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外庭に入居者と共に畑を作り、季節の野菜を育て収穫を楽しんだり、畑の傍にベンチを置き、野菜の成長を眺めて楽しむようにしている。時にはテーブルを置き、みんなで昼食を摂ったりしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない